

令和7年8月29日

第7回 中津市学校のあり方検討委員会会議録

第7回 中津市学校のあり方検討委員会 会議録要旨

日時：令和7年8月29日（金） 18：33開会

場所：中津市教育委員会 教育委員会室

出席者：伊藤委員、奥村委員、今長委員、本田委員、相原委員、桑嶋委員（6名）

事務局：古口教育長、黒永教育部長、尾家課長、朝吹課長、杉村主幹（5名）

1. 開会

○黒永教育部長より開会の挨拶を行った。

○事務局より出席委員は11名中6名であり会議が成立する旨を報告（中津市学校のあり方検討委員会設置要綱第6条第2項）

○前々回および前回の議事録要旨について事務局より説明した。

2. 委員長あいさつ

○伊藤委員長より挨拶を行った。

3. 議事

素案について

○事務局より、資料に沿って素案の「はじめに」の部分について説明した。

○A委員：この委員会の基本的な姿勢、それから学校視察を行ったことも含めて、必要なことは万遍なく含まれているかなと思います。

（1）学校のあり方検討の目的・（2）学校のあり方検討の視点・（3）目指したい教育環境

○事務局より、資料に沿って学校のあり方検討の目的・学校のあり方検討の視点・目指したい教育環境の素案について説明した。

○A委員：4ページの真ん中のハリー・スタック・サリヴァンの言葉は、これはどうしても入れたいのでしょうか。報告書の中に特定の人物の見解が入ってるというのが報告書にはそぐわないかなという気がしまう。結構古い時代の人じゃないかなと思うんですけど、いつ頃の人ですか。

○事務局：最近ではないです。

○A委員：そういうこともありますし、それから母子関係のことを取り上げて言ってるんですけども、今父親の育児参加とか言われてますし、それから中には幼いころから父子で生活している家庭もあるわけですね。だからここで母子関係だけ取り出して、その重要性を言うというのは、最近の動向の中で言うと少し不適切に感じる人もいるかもしれない。この中津市の学校検討について、特に必要であるとは思われないのでこれは削除していいんじゃないかなと思います。

○事務局：削除していただいてもいいと思います。集団で学ぶことが大切ということ、ある程度子供同士が切磋琢磨することが成長に繋がるということの意味合いで言葉を引用させていただきました。

(4) 学校規模の考え方・(5) 学校のあり方検討の方法・(6) の学校規模に応じた検討の視点

○事務局より、資料に沿って学校規模の考え方・学校のあり方検討の方法・の学校規模に応じた検討の視点の素案について説明した。

○B委員：11 ページの多分最後の方の意見は、私が前回言ったことだと思うんですけど、特に地域ごとに統合する案がいいと思うというように少し断定的に書いてあって、皆さんの意見としてこれを書くのは良くないのかなと思うので、消してもらった方が良いのかなと思いました。

○事務局：ありがとうございます。今回統合する案がいいと思うという「一意見」として載せました。この委員意見以外のときにも、このような意見というのが出ていましたので、総論として伺っているということで、一意見として載せさせていただいておりますので、このままでも事務局としては大丈夫だと思います。

○A委員：学校のあり方検討の方法で、学校の呼び方がわかりやすくなったと思います。小中一貫型小学校・中学校というのが、法的には小学校、中学校で一貫教育を行う学校で、大分市でいうと賀来小・中学校のような学校。義務教育学校は碩田学園のような学校。その両方合わせて「小中一貫教育の学校」というのは非常に明確になったと思います。

9 ページのところに、義務教育学校の施設形態として、施設分離型であっても、義務教育学校の設置が可能だということになるんですけど、それは間違いはないですか。

○事務局：「小中一貫した教育課程の 編成・実施に関する手引」の 20 ページに同様の表があります。

○事務局より、11 ページの耶馬溪地域に行くより三光に行きたいという意見が出るのではないかと委員意見について、その理由を確認し、補足を追加した。

(7) 学校再編のプロセス(案)・(8) 通学路・通学支援・跡地活用・フォロー

○事務局より、資料に沿って学校再編のプロセス(案)・通学路・通学支援・跡地活用・フォローの素案について説明した。

(9) 学校視察(その①)・(10) 学校視察(その②)・(11) 資料・(12) 中津市学校のあり方検討委員会開催一覧・(13) 中津市学校のあり方検討委員会委員一覧

○事務局より、資料に沿って学校視察(その①)・(その②)・資料・中津市学校のあり方検討委員会開催一覧・中津市学校のあり方検討委員会委員一覧の素案について説明した。

○A委員：(以前配布された、本耶馬溪・耶馬溪・山国地域、及び三光地域の児童生徒数の推移の資料について) 3 地域ごとに地域ごとの小学校全体の児童数が載っていたり、また 3 地域合わせた児童数が載っていたり、この見方が大事だと思いました。3 地域ごとの小学生を合わせた数、中学生を合わせた数、小中合わせた数、そして 3 地域全部合わせてみた時も同様の数がわかるというのが大事だと思うので、このままでなくていいのでもう少しわかりやすい形にして提示されるといいと思います。

○事務局より、学校視察のページについて当日のスケジュールを削除する旨を説明した。

○C委員：前回統合案のアンケートの中で、三光の統合案の中に、深水小と秣小を山口小と一緒にするというような案が出ていたので、この児童数の推移の中に三光中の推移はあるんですけど

も、山口小と真坂小の推移がないので、その辺りはどのように変わっていくのかなと思いました。

○事務局：先程の意見の児童生徒数の全体の人数を載せるときに、今回の検討の対象というのは、真坂と山口を除いた今既に過小規模校というところですので、載せる場合は山口・真坂は参考という形で載せるということによろしいでしょうか。

4. アンケートについて（学校統廃合の形）

○事務局より、資料に沿ってアンケートの結果について説明した。

○D委員：このアンケート結果は、報告書の中の位置付けとしてはどのような形になりますか。

○事務局：方向性が出てしまうので、報告書の中には入れずに、教育委員会で検討する際に参考資料として提示する予定です。

○事務局より、アンケート結果の「小中一貫校」の表記が、「小中一貫型小学校・中学校」、「義務教育学校」・「小中一貫教育の学校」に修正されていなかったため修正する旨を説明した。

5. その他

○次回の検討委員会の日程を事務局に一任させてもらうようお願いした。

7. 閉会

○黒永教育部長より閉会の挨拶を行った。

19時41分 閉会